

脳神経外科ローテーション研修目標

代表的な脳神経、血管疾患の病態を把握し鑑別診断をおこない速やかに的確な脳外科的治療を施す能力を身につける

経験すべき病態・疾患・検査・治療

1．鑑別診断と治療を速やかに実施できるように

- 頭蓋内圧、亢進と低下を説明できる
- 脳血流の調節機構について説明できる
- 髄液循環動態と水頭症について説明できる
- 脳浮腫の原因と病態を説明できる
- 神経障害の分類をのべ重症度の評価ができる
- 脳の機能局在と障害部位診断ができる
- 意識障害の原因について説明できる
- 痙攣、痙攣重積の原因について説明できる
- 脳死の判定法について説明できる
- 痴呆の原因と診断法を説明できる
- 痛み、頭痛、顔面痛の原因について説明できる
- 頭部外傷の基本的な診察法ができる

2．適切な初期治療を実施できるように

- 静脈確保（深部静脈を含む）ができる
- 頭皮裂傷の処置ができる
- 腰椎穿刺ができる
- 気管切開ができる
- 気道確保（気管挿管を含む）ができる

3．脳外科の手術を速やかに的確に実施できるように

- 必要な術前検査の項目を指示できる
- 術前の患者の全身状態を把握することができる
- 頭部の手術についての術前処理を説明できる
- 基本的な頭皮、頭蓋の血流と皮切、止血と縫合法を述べ参画できる
- 開頭、閉頭の方法を述べ参画することができる
- 硬膜内外血腫と脳内血腫の除去法および術後出血予防の方法を述べ参画することができる
- 各種ドレナージの意義とケアの方法を述べ実施できる
- 顕微鏡手術の方法について述べ実践（ガーゼを用いた微小血管縫合の練習）ができる
- 一般的な術後合併症の予測と予防ができる

4 . 脳外科疾患の病態、疾患に応じた適切な治療を実施できるために

1) 頭部外傷重傷度と続発症

受傷機転に関しての必要な情報を得ることができる
初診時における診察、必要検査、専門医に連絡すべき状態が判断できる
頭部単純撮影の方法が指示でき、読影ができる
続発しうる病態をある程度予測できる

2) 重症頭部外傷患者の治療

初期治療が的確に行える
保存的治療の適応の判断ができる
継続的な検査の予定が立てられる

3) 脳・脊髄損傷 (頭部外傷、急性硬膜外・下血腫)

初期診断ができる
おおよその高位診断ができる
脊髄骨折について、安全にレントゲン撮影が指示でき診断ができる

4) くも膜下出血 (A)

くも膜下出血の疑いをもち診断ができる、
重症度を判断できる
脳動脈瘤の再破裂をできる限り起こさない初期治療ができる

5) 脳内出血 (A)

脳内出血の部位診断ができる
原因についての鑑別診断ができる
初期治療の計画が立てられる

6) 閉塞性脳血管障害 (脳梗塞)(A)

発症状況に関する情報を十分に得ることができる
原因やリスクファクターに基づき、適切な検査が指示できる
治療方法、薬剤を選択できる

7) 脳腫瘍

鑑別診断の手順と治療方法について説明できる